令和３年度第２回堺市博物館協議会　会議録

日時

令和４年２月17日（木曜）午後２時から４時30分まで

場所

堺市博物館　ホール

出席者

堺市博物館協議会委員

岩間香会長、禰宜田佳男副会長、伊住禮次朗委員、伊藤廣之委員、岡田光代委員、土橋ひとみ委員、村田路人委員（欠席：中周子委員、服部倫子委員）

事務局職員

須藤館長、岩本副館長、増田課長、神原参事ほか

会議録

司会（神原参事）　それではただいま定刻の14時となりましたので、令和３年度第２回堺市博物館協議会を開催いたします。本日出席いただいております委員の方々につきましては、９名中７名ご出席いただいております。過半数の出席をいただいておりますので、堺市博物館協議会規則第４条第２号により協議会が成立していますことをご報告いたします。
それでは、最初に館長須藤よりご挨拶を申し上げます。
須藤館長　皆さんこんにちは。館長の須藤です。
本日は、令和３年度第２回の博物館協議会を開催します。岩間会長、禰宜田副会長をはじめ、委員の先生方におかれましては、本日は非常に風の強いなか、そして年度末で大変お忙しいこととは思いますけれども、さらに、まん延防止等重点措置の真っただ中にもかかわらず、ご出席いただきまして、心から御礼申し上げます。
本協議会は、堺市博物館の活動と事業の活性化に向けて、それぞれの分野の第一線でご活躍なさっておられる委員の先生方からご意見を賜って、今後の博物館の発展を期したいと考えておりますので、ご意見をよろしくお願いいたします。
昨年10月の第１回協議会におきましては、委員の先生方にリニューアルした古代コーナーを観覧いただきまして、展示のコンセプト、あるいは展示の手法についていろいろなご意見をいただきましたし、また、百舌鳥古墳群の真っただ中にあるこの博物館が、古墳研究の今後の発展にとってどのような役割を果たすのかというご質問および激励のご助言もいただきました。
昨年の10月から博物館もようやく日常性を取り戻すことができまして、10月30日には、シンポジウム

を、フェニーチェの小ホールで、堺の無形文化遺産を考えるというテーマで行いました。
これは、隣に併置しておりますユネスコの研究機関、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置 10 周年を記念するシンポジウムで、堺には伝統芸能のふとん太鼓とか、だんじりとか、あるいは、上神谷（にわだに）のこおどり、やっさいほっさい等々の大変質の高い民俗芸能がありますけども、これの維持継承に於ける問題と、その伝統芸能を市民の多くの方にいかに理解してもらうかということを議論の対象としました。非常に盛り上がったシンポジウムだと思っております。
そして 10 月から 11 月にかけましては、企画展で、国の重要文化財に指定されております、和田（みきた）家文書の展覧会を行いました。
この展覧会には約 1 万 2000 人の方が来てくださいまして、非常に注目を浴びた展覧会だと思います。
そのように昨年は年末にかけてですね、順調に博物館活動を展開することができて、新年からは、「昔のくらし展」をオープンしまして、約 30 校の小学校から見学の予約が入りました。
当博物館におります、元小学校の先生をやっておられました 2 人のインストラクターもスタンバイしまして、子どもたちが来るのを待っていましたけれども、来たのは、7 校のみでした。
これもまん延防止措置の発出によって自粛したわけです。こちらの展示も期間を 1 ヶ月延長して、3 月末まで「昔のくらし展」を展開する。そして、キャンセルした学校には再度来てほしいと要請をしていまして、現在 10 校ほどが希望していると聞いております。
小学 3 年生を対象とした、毎年行っている恒例のこの「昔のくらし展」ですので、より多くの堺市内の学校の子どもたちが昔の自分たちの文化、歴史を知ってもらうために重要な展覧会です。後ほど皆さんにご覧いただきまして、意見をと考えております。
そして、この 1 年間、昨年もそうでしたけども、一昨年もそうでしたけれども、うちの学芸員が、オリジナルのアイデアに基づいて、2 年、3 年にわたって考えて、エネルギーをつぎ込んだ展示の努力っていうものが、無残にも実現されないっていう、こういう事態がずっと続いてきております。
早くですね、政府が国を挙げて、先手先手のこのコロナウイルスに対する政策措置をとって早く収束していただかないと、ズルズルとこのままいってしまいかねないので、私たちは日常の博物館活動に戻れることを 1 日も早く願っております。
ちょっと前置きが長くなりましたが、今日はお手元の書類にありますように、討議いただく内容、議題は 2 件ございます。一件は、「昔のくらし～みんなの知らない昔の堺～」を皆さんご覧いただいてそれに対する、ご意見、ご印象を聞きたいと思っております。
それから二つ目は、市政モニターアンケートの分析に基づいて、堺市博物館の今後のあり方について、先生方のお考えをお聞きすることにしておりますので、よろしくお願いいたします。
短時間の今日の会議ですけれども、本館の活動と運営に関しまして、皆様から忌憚のないご批判やご意見を頂戴したいと考えております。
皆さんからいただいたご意見を今後の本館の企画や運営に活かしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。
それでは本日、こういう議題について進めさせていただきます。
司会　はい。それではですね、これからの進行につきましては着座にて進行させていただきます。失礼いたします。
ここで前回第 1 回の協議会を欠席されておられました委員のご紹介をさせていただきたいと思います。

委員の皆様におかれましては、一言ご挨拶の方をよろしくお願いいたします。
まず、伊藤廣之委員です。
伊藤委員　委員の伊藤です。3 年ほど前までは大阪歴史博物館で、学芸員をしておりまして、今はもう定年退職をしております。よろしくお願いいたします。
司会　はい。続きまして、村田路人委員です。
村田委員　村田と申します。どうぞよろしくお願いします。私は専門は日本近世史でございます。たまたまついこの前まで吹田市立博物館の協議会の委員をやっておりましたが、その任期が切れちょうどそこが終わったところでこちらの委員になったという、そういう次第でございます。どうぞよろしくお願いします。
司会　はい、ありがとうございました。なお、中周子委員と服部倫子委員におかれましては、所用のためご欠席というご連絡をいただいております。続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。まず、館長の須藤でございます。
須藤館長　よろしくお願いします。
司会　続きまして、副館長の岩本でございます。
岩本副館長　岩本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
司会　学芸課長の増田でございます。
増田課長　よろしくお願いします。
司会　課長補佐の石崎でございます。
石崎補佐　よろしくお願いします。
司会　そして本日の司会をさせていただきます参事の神原でございますよろしくお願いいたします。他にも博物館職員も同席させていただいておりますので、よろしくお願いしたいと思います。
それではここから岩間会長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
岩間会長　はい、ではただいまから令和 3 年度第 2 回堺市博物館協議会の議事に入りたいと思います。
それではまず議事の令和 3 年度事業中間報告について事務局より報告説明をお願いいたします。
増田課長　はい。それでは報告させていただきます。このまま着座にてご報告させていただきます。失礼をいたします。それでは資料 1 をご覧ください。令和 3 年度特別展、企画展の状況を報告させていただきます。まず特別展としましては、2 年度からのまたがりということになりますけれども、「海を越えたつながり―倭の五王と東アジア―」を開催しております。続きまして企画展としましては、「豊臣秀吉と堺」、スポット展示、スポット展示というのは企画展会場と別で、小さな企画展と考えていただければ結構かと思いますけれども「百舌鳥・古市古墳群のたからもの」を、そして企画展「堺敷物ものがたり」、「和田家文書の世界―鎌倉～南北朝期の和泉・河内―」、そして現在開催しております「昔のくらし～みんなの知らない昔の堺～」を開催しております。
会期につきましては、上の欄、括弧の上に書いておりますのが本来の会期でございまして、括弧書きになっておりますのが、コロナ、緊急事態宣言による休館などの影響を受けました、実際の会期を書いてございます。
「海を越えたつながり」、特別展ですね。こちらの方ももともとは令和 2 年度で開催する予定であったもので、コロナ禍により令和 3 年度にまたがる事業として開催をしましたが、会期最後の方は休館を余儀なくされております。

また「豊臣秀吉と堺」も、令和 2 年度に元々は計画をしていたものですけれども、令和 2 年度中に開催できずに 3 年度に回ったんですが、5 月 29 日から 7 月 11 日にかけて考えておりましたが実際開催できたのは 6 月 22 日からということになっております。
スポット展示の「百舌鳥・古市古墳群のたからもの」も、8 月 22 日で一旦終了してしまいました。企画展「堺敷物ものがたり」に関しましても、途中で大きく休館を余儀なくされましたので、7 月 17 日から 8 月 22 日、そして 9 月中は休館になり 10 月 1 日から 3 日間だけの開館となっております。それ以降の企画展に関しては一応予定通り開催できたということでございます。令和 2 年度の 4 月から 9 月の上半期に関しましては、開館予定が 160 日間だったんですけれども、そのうち開館できたのが 72 日間でございまして 47.5%のみ開けることができたということでございます。
続きまして資料の 2 ですね、令和 3 年度の体験学習の参加人数ということですが、こちらは、たくさん子どもたちに来てもらってということなんですけれども、行事は 4 月から 10 月まで開催をすることができませんでした。
元々は 5 月から 1 年をかけてだいたい 20 回程度の、体験学習を計画していたんですけれども、計画を練り直しまして 11 月以降に 8 回の体験学習会を開催できたということでございます。このように非常に大きな影響を受けた令和 3 年度であったということになってございます。簡単ですが報告は以上で終了させていただきます。
岩間会長　ありがとうございました。
今の説明ですね、特別展、企画展あるいは体験学習について何かご質問はございますでしょうか。ご意見、ご質問いかがでしょうか。伊住先生ですか。
伊住委員　ありがとうございます。茶道資料館の伊住でございます。
資料 2 の方で体験学習の参加者の人数というのを書いていただいておるんですが、あの体験学習の方で何か中止になってしまった企画というのは、具体的にどのようなものが挙げられるでしょうか。
増田課長　先ほど申しましたけれども、5 月以降に 20 回程度の計画をしていたんですけれども、こちらの方は内容的に開催が難しかったというのは少ないんですが、やれなかったのは、例えば博物館の方には古墳時代の服というのがありまして、それを着たりするようなイベントもあったんですが、それはなかなか難しかったかなというのはあります。
それ以外は基本的には何か作るというのが多かったので、人数を少なくしながら開催しようと考えていたんですが、基本的にはイベント自体を中止しようということに全庁的になっておりましたので、そのあたりは開催できなかったと、開館していたけれどもこういった体験系のイベントは中止したというのが現状でございます。以上でございます。
岩間会長　他に何かございますか。
土橋委員　資料 1 の方なんですけども、来館されていても展示をご覧にならない方も結構おられるのかなっていうのがいつも思ったりはするんですけどもそこまで来られているのに、できれば展覧会にも参加していただいた方がありがたいのかなと思うんですけども。館としては、この辺はどのようにお考えなんですかね。
増田課長　そうですね。この来館者数と観覧者数の差というのはずっとございまして、中に入られたけども、この地階の方にすぐ降りられて、置いておりますパズルなんかで子どもたちと遊んで、トイレ休憩も兼ねてずっと遊んでそれから帰られるという方が非常に多いのかなという部分もあります。中にはグッ

ズだけ買ったりとか図録を買っただけで帰られる方もいらっしゃるとは思います。とりあえずまずはそういった方々に、一度博物館の敷居をまたいで入っていただくということは重要かな、行けば楽しいこともあるなということを子ども達中心にわかっていただければいいのかなとは思っております。そこから展示場に入っていただくっていうのは、お金もかかるしだとか、ちょっと難しいから私達はいいわっていうような感じの方が多いのかなとは思います。入っていただいた方、どうぞ展示場へというようなアクションがなかなか、難しいかなと思います。まずは博物館の中に入っていただくというきっかけがあれば、それでいいのかなと思ってはおります。そこから何とか展示場の中に入っていただければありがたいんですけれども。以上でございます。

土橋委員　私もやはり博物館に一度来てみていただくきっかけとしてまず展覧会ですが、必ず見ないといけないってことではないのかなと思いながらも、特に子どもさんたちが何かそういうことが印象に残っていて、あるいはその小学校 3 年生ですかね、堺市の小学生の方は、学校の見学でも団体でも来られているそうなので、そういう体験が積み重なっていって、また何か興味がある展覧会があれば、来るっていうふうに繋がっていけばいいのかなと思うんですけども。この博物館に自由に使える場所がある、お金払わなくても無料で入れる場所があるっていうのも一つの特徴としていいのかなと思って。いわゆるきっかけ作りのそういうエリアがあるというみたいなことにもなりますし、またそういうところで、例えばボランティアさんが何かアプローチするみたいなこともあってもいいのかなというふうに思いました。ありがとうございました。

岩間会長　ありがとうございます。他に何かご意見ないでしょうか。先生、いかがですか。

村田委員　はい。特別展とか、企画展とかですね、それからこの体験学習だとかどういうことをされているかというのが、わかったんですが。もちろんアンケートなんかを取られるかと思うんですが、例えば、こういった協議会の資料にそのアンケートの主な声をちょっと上げていただいたらどんな反応だったのかなってことがよくわかるんですけれども、ちょっと簡単すぎるような気がしましたので。例えば具体的にどの展示が非常に好評だったというのはさっき館長さんの話にもあったんですけど、どういう点でそれが好評だったのかということですね、あるいはあまり評価が高くなかったものは、どういう点でそうだったのかとか、その辺の具体的な来館者の声を紹介していただきたいなと思います。

増田課長　ありがとうございます。また次回の協議会では正式な完全な形で令和 3 年度の行事の報告をさせていただきますので、そのあたりでまた報告させていただければと思っております。

岩間会長　他に何かご意見ないでしょうか。よろしいですか。いろいろご意見いただきましたが、「古代の服を着る」など多くの体験が中止になったりして、コロナの影響が大変あったということを伺いました。それから無料のコーナーに来てもなかなか展示コーナーまでは行かないと言う人が多いということですけど、きっかけ作りになるんじゃないかということで、それもよいということで、ご意見がありました。声掛けなどこれからの工夫も必要かと思います。それとこういう企画展、特別展に関してはアンケートの内容も掲載してほしいというようなご意見を頂戴しました。だいたいそんなところでしょうか。では次に案件に入りたいと思います。

案件 1 企画展「昔のくらし、みんなの知らない昔の堺」について、事務局からご説明をお願いいたします。

増田課長　現在開催しております、「昔のくらし～みんなの知らない昔の堺～」につきまして、皆様にご見学をしていただきたいと思いますので、展示会場の方によろしくお願いをいたします。

（企画展会場へ移動の後、戻る）

岩間会長　そうしましたら、展示を拝見して参りましたけれども、事務局の方から企画展「昔のくらし」についての説明をお願いいたします。

増田課長　ご覧いただきましてありがとうございました。拝見いただきました「昔のくらし」についての説明をさせていただきます。展示場で各担当の方からも説明があったかと思いますが、小学校学習指導要領の第 2 章第 2 節社会のうち第 3 学年の内容として挙げられている市の様子の移り変わりに考慮して行われており、小学校の校外学習との場となっているものでございます。先ほど館長から説明しましたように、今年度は 30 校ほどの見学の申し込みがございました。まだ、7 校ほどしかまだ実現はしておりませんけれども、通常ですと堺市の小学校 93 校ほどございますが、そのうち 40 校程度はお越しいただいています。中にはこういった内容を各学校でやられるような、資料に恵まれた学校もありますし、どうしても交通の便で来られない学校もあるかとは思います。まず、展示場で展示を見ていただいたり、そしてこの部屋で、昔の遊びを実際に行ったり、隣の部屋で昔の道具を実際に見ながら解説を聞きながら、というようなふうにですね、見ていただいて、非常に好評かなと思っております。通常の場合ですと、2 月 3 月に体験学習会も行います。その時には、今度は自分の家のお父さんお母さんであるとかおじいちゃんおばあちゃん、兄弟だとかを連れてきて、これ楽しいよって、こうやってできるよとか言いながら遊んでいただいたり経験していただいています。そういうことで、先ほど土橋委員がおっしゃったように、博物館に来るという一つのきっかけとなるようなものとして、先ほど展示場で担当が申しておりましたように、まず小学生のうちから博物館というものが、実は敷居が低くて楽しいところだよ、というふうに思っていただけるようなものとして毎年開催しているものでございます。以上でございます。

岩間会長　ありがとうございました。いかがでしょうか。今の展示を見てご感想なりご意見なりをお伺いしたいんですけれども。

伊藤委員　伊藤です。私も学芸員の仕事をしていまして、似たような展示もやった経験から、ちょっと感想といいますかお話をしたいと思います。一番今日、話を聞いてよかったかなと思うのが、やはりこういった展示はどちらかというと、どこの館に行っても同じようなものを取り上げて、同じような切り口といいますか、示し方になってしまっている場合が多くて、それから比べると今日のご説明にありましたように、堺らしさをちょっと盛り込むといいますか、堺のエピソードあるいは堺で生産されていたものなんかを交えて、展示を組み立てるっていうのは非常に地元である博物館としては意義があるものかなと感じました。それからご提案というかこちらの方の感想なんですけども、あの、多分かなり多くのものが、市民の方からの寄贈品ではないのかと思ったりもするんですが、これは館によっていろんな考え方があるんですけども、寄贈いただいたものであれば市民の了解が得られれば、誰々氏寄贈というようなことをですね資料名のところに入れていただいたら余計にいいのかなといった感想を持ちました。それとあと一点丁寧なやり方として、自分なりにも見ていてこういうこともあるかなと思ったのは、例えば堺の風物詩とか疎開の原画とかの絵画資料は貴重なのでガラスケースの中に入っているんですけども、ちょっと物が小さかったりするので大きくパネル化して壁面にも展示するとか、あるいは拡大して、ファイルに入れて、自分の手元でめくりながら見られるとか、そういったやり方もあるのかなと思いました。今、コロナ禍ということもありますけども、そんなことを感じまして、いろいろと工夫された展示だ

なというふうに思いました。以上です。

岩間会長　はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

岡田委員　展示のターゲットとかご説明で、小学校の指導要領に則してということだったんですが、それは知る人は知っていますけど、わからない人間には全くわからない事情じゃないのか。この企画展のこのチラシを見ても、そういうことはまあ書いてないわけですよね、展示を見ていると、例えば小学校 4 年ぐらいをターゲットにして、そのお母さんたちの時代とかおじいちゃんおばあちゃんの時代とか説明があったりするんですけど、そういう指導要領にも即したそういう展示なんですよ、というのをはじめに出すべきかどうかわかんないんですけれども。そのわからない方って結構多いんじゃないかと思うんですよね。だいたいこのへんに関係している人たちは学校関係とか、博物館に関わっているとかで、なんか当たり前のように知っているかもしれないんですけれども。案外、とにかく昔のくらしって漠然としているので、だいたいこういうことをターゲットにしていますよっていうのを何か説明するなり、そのあたり、何か工夫があってもいいのかなっていうのは思ったんですが。以上です。

岩間委員　いかがでしょうか。

土橋委員　昔のくらしっていう企画展を学校と協力しながらやっておられるのかなあということで非常に興味深い展示が多かったんですけども、ただ小学校は 3 年生だけですかね、他の学年は団体では来られないんですかね、せっかく本当に学芸員の方が工夫されて、子どもたちにわかりやすいようにという視点で解説もされておられるのかなと思うんですけども、昔のくらしといいましても、別に小学校 3 年生だけがこの展示を見に来るっていうことじゃなくって、もうちょっと上の学年の子どもたちであるとか、本当に例えばおじいちゃん、おばあちゃん世代って言いますか、そういった人たちにも見ていただくっていうことがいいのかなと思うんです。一つの展示を見ても視点はいろいろ多分あると思うんです、私なんかもどっちかっていうと懐かしいなっていうものが大変多かったんですけども。いろいろ歴史をたどるという時に自分の個人の暮らしと結び付けて展示品を見るっていう方もおられるでしょうし、あと高齢者の方でそれがふさわしいかどうかわからないんですけども、何か回想法っていうので、高齢者の方で中には昔のことはよく覚えておられて、普段ひきこもりがちの方もそういったことをきっかけとして、他の人とのコミュニケーションが復活したりっていう話も聞きますので、高齢者施設というのが、どこまで広げられるかわからないんですけども、小学校 3 年生をターゲットにしながらも、幅広い年代層の方々いろんな立場の方々にぜひ見に来ていただけるような、そのアピールの仕方っていうのも工夫していただければ、本当に学芸員の皆さんのご苦労が生かされるんじゃないのかなあと思いました。他の博物館で同じようなことをされていると今日実は初めて聞いて、非常に勉強不足なんですけども、それぞれの館の考え方もおありでしょうし、一つ参考に考えていただければありがたいなと思います。

岩間会長　ありがとうございました。皆さんに伺いましょうか。伊住先生、何かありませんか。

伊住委員　そうですね、先ほどご指摘があったその小学校 3 年生が対象になっているというのは、学校と連携している中で小学校 3 年生が団体と学校の教育の形の中で、小学校 3 年生だけが対象になって博物館に勉強に来ているというようなイメージということでよろしかったでしょうか。それ以外の学年が仮に何か来たりとなればそれはそれで、受け入れているケースもちろんあるということですよね。

そのあたりがちょっとお伺いしたかったことと、まず子どもたちの教育ということで博物館が活用されるというのは本当に望ましいことだと思うんですけども、やはり団体で受け入れて学芸員の方々が解説するという中で、もちろん一般の方々もその中に混じりながら展示はご覧になっているというような状

況の中で、団体の人数というか、受け入れの上限人数みたいなのはだいたいどれぐらいで、常々やられているかというのが、お伺いしてもよろしいでしょうか。

岩間会長　いかがでしょうか。

増田課長　特に学校の場合は団体で来られる場合はそのままお受けをしております。としましても現在の状況ですので、一つの団体で上限20名程度ぐらいまででお願いをしているという状況です。以上です。

伊住委員　ありがとうございます。

岩間会長　20名ですと、ひとクラスが来るというわけにはいかないですよね。

増田課長　学校の場合はそれをお受けしています。

岩間会長　一学年どっと来ても、お受けしている。そうですか。村田先生いかがでしょうか。

村田委員　私もとても興味深い展示で、おもしろかったんですが。今のことに関して言いますと、一応、小学校3年生が、ターゲットとして考えられるということなんですけど、やはりどんな人たちが来ても、満足できるような展示という形が好ましいかと思います。私もその小学校の指導要領のことは全然知らないんですけど。こういう昔の暮らしという場合、昔というのはいつ頃の話だということがありますね。おじいさんおばあさんぐらいの時代と、もうちょっと前と、はるか前の江戸時代とかですね、割と単純な区分になっているかと思います。ただ小学校 3 年だったらそれでもいいんですけども、例えば大人、先ほどとの話とも関わるんですが、大人がそういう展示を見た場合にですね、ちょっと物足りなさを感じる可能性があるかと思いますね。これは江戸時代なら江戸時代の何時頃なのか。昔だけど、大正時代なのか、明治時代なのかですね、そういうもう少し歴史学に基づいた説明なども欲しいというふうに思うんじゃないかなと思うところがあります。ですから、あまり小学校 3 年というものだけに焦点をおくと、かえって他の来館者の満足度が減じるかもしれません。それから、ちょっと個別の感想ですけど、写真が割とたくさん展示されていました。それは堺市のどこかの部署が提供されたものですね。非常に貴重な資料をたくさん持っておられるということで。これはいつ撮影されたものかというのは、おそらくなかなかわからないんだと思うんですけども、少し考証していただいた方がいいかなと思います。それから、これも個別的な話ですけど、疎開直前の時期の絵を書いた方がおられましたね。岸谷勢蔵さんですか、その絵なんです。その一つ前のところにあった絵は昭和19年の年号があったので、その時期のものかなと思ったんですけど、その絵と次の疎開直前の状況を記録した絵のつながりについて説明していただいたらわかりやすいと思います。ちょっととりとめのない感想でしたが以上です。

岩間会長　ありがとうございます。禰宜田先生いかがですか。

禰宜田副会長　大変興味深く見させていただきました。しかもこのような企画を継続的にされているっていうことが非常に重要だと思いました。これからもこの事業は継続してやっていかれるんだと思うんですけども、その年その年で、「今年はここを特徴的にやっていくんだ」というキーワードを作ってやっていくことがあってもいいのかなと思いました。いろんな切り口がまだまだあるんではないのかなっていうことを思いました。そういうことを学芸の皆様方の中で、議論して計画されていったらいいんじゃないかなというふうに思いました。特に面白かったのは大浜公園でした。中百舌鳥球場とかも記憶はあるんですよね。堺っていうのは、昔いろんな施設があったんだということが非常に重要で、それが今はないんですよね。そうすると、今はこうですよっていう写真があってもいいのかなっていうふうにも思いました。今はこんなにビルが林立しているんだけど、昔はこうだったんですっていう対比を写真で示す、全てでやってしまうと、学芸の皆さんも大変だと思うんで、いくつかのものについてやってみるとか。そ

ういった事もご検討いただければとも思いました。以上です。

岩間会長　ありがとうございます。私も個人的にすごく面白い展示で楽しく拝見したんですけども、常設展示を見て最後に企画展示ということなんですけども、昔のくらし展が始まるところとの境がちょっと開放的すぎて何か「ここから始まる」、みたいなものがもう少しはっきりわかるといいんじゃないかなというふうに思いました。あとはやっぱり動画とか、使っているところの写真とか、あるいはその風景でもいいんですけども、壁なんかを利用して使用しているところをいろいろ展示したらいいんではないかなぁというふうに思いました。あと、ワープロのところで、私 40 年前に勤めたときに和文タイプってのを使わされたんですけども、それもう残ってないんですか。両手に持って打つというもので、この館で使ったきり、もうそれ以外に体験ないんですけども、あれ残念だな、捨てちゃったのかなあというふうにちょっと思いました。皆さんそれぞれの体験・経験に照らしても面白い展示だったんじゃないかなというふうに思います。皆さんからは堺らしさっていうのを出していてよかったというご意見、寄贈者の名前を入れたらどうかというご意見、指導要領に沿っていることを明示したらどうかというご意見、逆に高齢者の施設にもアピールしてはどうかというご意見、小 3 に限定しなくてもいいんじゃないかということも話に出ております。

それから今年のテーマはこれだというような、毎年何かこう絞ってみてはどうかというようなご意見も出たように思いました。あと資料写真とか資料を提示するにはいつの写真かとか、どこか、とかをきちんと考察して、明示したらどうかというご意見をいただいたと思います。他に何か、よろしいでしょうか。

はい、そしたらそれでは続いて次の案件に移りたいと思います。市政モニターアンケートについての説明を事務局からお願いいたします。

この案件では昨年の夏に実施した市政モニターアンケートの結果を踏まえて、委員の皆様には、若年層の来館促進に向けた取り組みについてご意見をいただきたいと思います。それでは事務局の方から説明をお願いします。

石崎補佐　はい。それではあの市政モニターのアンケートについて説明させていただきます。資料 4 になります。途中から資料 4 の別紙っていうことでちょっと資料の方が変わるんですけれども、とりあえず市政モニターアンケートというものがどういうものなのかということで、市政モニターアンケートの概要について説明させていただきます。

市政モニターアンケートは、市政の重要な課題や市民生活に関係の深い問題などに関して、市民意識を迅速に把握し、市政の効率的かつ合理的な運営に役立てるため、アンケートを利用したモニター制度ということで、今回の市政モニターにつきましては令和 3 年 8 月 20 日から令和 3 年 9 月 2 日の 14 日間で実施しました。市政モニターの方は、令和 3 年 4 月 1 日現在に市内在住、在勤、在学の 18 歳以上の方が対象で、500 名の方がエントリーされておられます。そのうち、今回のモニターアンケートの方で、堺市博物館の今後のあり方ということをテーマに、お答えいただきました。回答者は 500 人中 482 人、属性につきましてはお手元の資料の方のですね、年齢別っていうところなんですけども、一応今回の若年層というところにターゲットを当てますと、18 歳以上から 30 歳未満というところでですね、回答者の数が 61 人、全体の 12.65%ということになっております。性別につきまして参考までに書かせていただいておりますけども、男性が 190 名女性が 292 名ということで比率で言いますと、4 対 6 の比率になっております。

それでは続きまして別紙の方に移っていただくんですけれども、資料 4 別紙を見ていただきますでしょ

うか。下の方にページ数を振っておりまして、これ 10 ページまであるんですけれども、順番にそれぞれの設問に対してどういう結果であったかを説明させていただきます。まず表の構成なんですけれども、上段の方に表、右にグラフという構成になっておりまして、これがアンケートの基本的には何人がどういう答えということで、年齢別という属性がない状態で何人が答えたっていうことのものですね。それが上段になっていまして、今回若年層というターゲットで絞っておりますので、全ての資料において、下の表の方が年齢別ということで、18 歳以上 30 歳未満から 70 歳代までということでそれぞれの設問にどういうどれだけの人数の方がどういう回答をしたかということを答えるような資料になっております。
まず問 1 なんですけども、堺市博物館にどの程度関心がありますかということで、非常に関心がある、多少関心があると答えられた方っていうのが上の表なんですけども、12%、41.3%ということで、53.3%の方が博物館に対して関心があるということでお答えいただいております。逆にあまり関心がない、もしくは、全く関心がないという方が、それぞれ 36.3%と 10.4%ということで、46.7%の方ほぼ半分というような結果になっております。
年代別の傾向としましては、非常に関心がある、多少関心があると答えた方は、50 歳代から 70 歳代の方に多い傾向があり、逆にですね、18 歳以上 30 歳未満で非常に関心がある、多少関心があると答えた方が最も少ないというような結果になっております。
続きまして 2 ページ目のですね、問 2 の方なんですけども、この問では、あなたは堺市に博物館があることを知っていますかという問です。この設問に対してはですね、知っていたっていう方が 73.2%、知らなかったという方がですね、26.8%ということでですね、7 割以上の方が堺市には博物館があることを知っているという結果になっております。
年代別では、一応 18 歳以上から 70 歳代までの方の全てが知っているという方の割合の方が多いという結果になっております。比率につきましては、一概には言えませんが高齢の方のほうが、博物館の存在というのを知っている方が多いというような傾向はございます。続きまして 3 ページ目ですね。問 2 で先ほどの知っていますかということで、知っていたと回答された方に伺いますということで、あなたは普段堺市博物館に関する情報を何によって入手されていますかという問いなんですけども、これはもう非常にはっきりとした回答が出ております。堺市が毎月発行しております「広報さかい」の方で情報を得ているという方が 57.8%。その次にですね、堺市ホームページ、博物館のホームページ等でということで 14.4%。その次に博物館のチラシポスターというのが 7.4%ということでですね、情報源というのが、「広報さかい」っていうことが圧倒的に多いという結果が返っております。ただ、今回の若年層ということで見ますと、下の表を見ていただいたらわかると思うんですけども、ちょっと意外な結果というのが 18 歳から 30 歳未満のところの右から 3 番目、知人などからの口コミっていうところが、18 歳以上 30 歳未満のところ若年層に当たる部分が 15.6%という数字がありまして、これは他の統計の年代の方とは明らかに異質な回答結果が出ているということになります。少し前後しますけどもその他の意見としましてどういう情報源からという部分では、大仙公園内の看板であるとか、小学校からのチラシというようなものから情報を得ているというような意見もございました。余談にはなりますけども、堺市ホームページっていうところのパーセントだけで年代別で見ますと、意外にも 60 歳代が 23.2%。逆にちょっと私では個人的には若い方の方がホームページとかこういうネット情報というのを検索するのかなと思っていたんですけども意外にも、60 歳代の方の方がホームページ等で情報を入手しているというところの数字が、高い結果になっております。

続きまして 4 ページ目ですけども、問 2 で知っていたと回答された方に伺います、ということであなたは今までに堺市博物館に行ったことがありますかという問いです。わかりやすいのは右のグラフですね、見ていただきましたら過去 3 年間で 1 回が 17.8%。過去 3 年間で 2 回から 3 回が 12.5%、過去 3 年間で 4 回以上が 5.7%、3 年以上前に行ったことがあるっていうのが 32%ということでこれ合計しますと、68%の方が堺市博物館に行ったことがあるという結果になっております。これは設問 2 で知っていますかっていうことの回答の中の 68%ということで、353 人の分母に対して 68%ということ、240 名の方が博物館には行ったことがあるということで回答いただいております。
年齢別、下の方の表ですけども、これにつきましては、行ったことがないという比率が高いのが、これが 18 歳以上 30 歳未満の方および 30 歳代の方がですね、行ったことがないという割合が最も多いというような答えになっております。この行ったことがあるというパーセンテージを見ていただいたら 3 年以上前に行ったことがあるという方がですね、全体で 32%ということでこれを裏返すとどういうことかというと、リピート率が低いということが、窺えるのかなというふうには思います。逆にヘビーユーザーというか 3 年間で 4 回以上来ていただいている方っていうのが多いのは、やはり 70 歳代の方が 13.1%ということで、年代が上の方の方が来ていただいている回数が多いという結果になったと思っております。
続きまして 5 ページです。問 4 で今までに堺市博物館に行ったことがあると回答された方に伺いますと、堺市博物館に行かれた目的は何ですかという質問に対して、これは複数回答が可ということになっておりますので、分母の方が、行ったことがある方って先ほどちょっと口頭で言いましたように 240 名ですけども、回答が複数ありますので、それの集計となっております。
上の方の表で一番がですね、企画展特別展を観覧するためっていうことが 38.3%、続きまして堺の歴史文化について知りたかったためというのが 35%、たまたま近くにいたためというのが次の 3 番目にエントリーされていまして 22.9%という数字になっております。
それでですねその他の意見としましては、博物館に行く目的というのは何かというところでミュージアムグッズや図録等の購入のため、もしくは無料のイベント無料券を持っていたということと、堺へ友人が来たときに観光の一環として博物館に行きました。あとは学芸員の勉強しているためというような意見もありました。基本的には全ての年代に平均して高かったのがですね、やはり堺の歴史文化について知りたかったためとか、企画展・特別展を観覧するため、っていうところがどの年代も高い傾向にはあったんですけども、若年層の 18 歳以上 30 歳未満というところだけがですね、ちょっとイレギュラーな数字がかえっておりまして、学校行事っていうところで、校外学習や社会見学・遠足などへの参加ということで行ったことがありますかという問いですので、おそらく先ほどから議論していただいている学校の行事等で、博物館に来たことがあるよという方が、こういうことで 63.2%って、明らかに異質な数字が出てますのがそういうことなのかなというふうには分析しております。
あと 40 代で数字的にレギュラーの数字があるなというのがありまして、40 代の方が 34.7%、子どもの引率っていうことを保護者、教員などとしてっていうことですけども、おそらく、子どもさんを博物館に連れてくるにあたって一緒に行きましたよ、という回答なのかなというふうに理解しております。それ以外はたまたま近くにいったためというのはありますけど、これも意外に 40 代と 50 代の方が 25%以上の数字がかえっておりますので、意外に目的がなくても、たまたま通って博物館に入っていただく方っていてるんだな、というふうにはちょっと感じるところではあります。
続きまして問 6、6 ページ目の問 4 で「5 行ったことがない」と回答された方に伺いますということで、

行ったことがない理由は何ですかということですが、これについては選択肢は五つです。一番多い回答が行きたいとは思っていたが行く機会に恵まれなかったからという方が 52.2%、半分以上ですね、続きまして多かった意見が、観たいものがないからということで 26.5%。続いて自宅からの交通が不便だからという回答が 12.4%という結果になっております。
観たいものがないからという非常に痛い意見なんですけども、この傾向というのが観たいものがないからというのを答えられた方の大半は、やはり 18 歳以上 30 歳未満からですね、50 歳代の方の意見が多い傾向にあったと思います。基本的には皆さんの意見というのはやはり行きたいとは思っていたが行く機会に恵まれなかったから、というのが 52%ですので、大半の意見としては、どの年代も機会に恵まれなかったということなんですけども傾向としては、観たいものがないと答えた方の率が高いのが、18 歳以上 50 歳未満の方という傾向にあります。逆にご高齢の方というか 60 歳代から 70 歳代の方についてはですね、交通の利便性ということで自宅からの交通が不便だからという意見が多かったという統計にはなっております。
続きまして 7 ページ目です。問 2 で知っていたと回答された方に伺いますと、堺市博物館の展示で特に興味のあるもの、充実させて欲しいものがありますかという問いに対して、これは二つまで回答可能です。一番多いのは堺の通史全体の展示、続いて古代・古墳などに関する展示。続きまして近世・近代すなわち江戸時代以降の堺の展示ということでいただいております。堺の通史全体の展示ということで、よく当館の方はですね、古代からしかないとかで通史が見たいけど今日見ていただいた企画展を開催するために近現代のところを一部展示物をどけて、企画展をするという構造になっていますので、なかなか通史を通して見ることができないという状況があり、そういうことの裏返しなのかなというふうに一部理解しているとこもあるんですけども。
また、スタート地点、今回の令和 3 年 3 月のリニューアルの際にですね、一部は古墳時代より前のところっていうのはさわりの部分ではいくらかふれている部分はあるんですけども、どうしてもやはり前段がないというような意見もいただいているのは事実ですので、その辺で通史の展示というような答えがあるのかなというふうには思っております。古代というのはもちろんここは百舌鳥古墳群の中心にある博物館ですので、やはり古墳に関する展示というようなことに対する期待というか充実させてほしいという意見というのは、理解できるかと思います。意外な結果としましては、近世・近代、江戸時代以降の堺の展示というのが 3 番目に来ているということで、これまでやはり堺というと、やはり古墳を除けは中世の自治都市の堺ということであれば、この設問に対しては中世、鎌倉・室町時代の堺の展示っていうところの方のパーセンテージが上がるのかなというふうに思っていたんですけども、意外にも江戸時代以降の堺の展示っていうところの方の数字の方が、今回は高いという結果がかえっております。下の方に堺の偉人の展示の内容ということでちょっと名前挙げていただいた部分について千利休とか秀吉とかいうことで書いていただいていますけども、意外なところで大久保利通であるとか、鳥井駒吉、もうここ最近ですけど橋田寿賀子さんの名前も出ております。橋田寿賀子さんは一応泉陽高校出身ということで、与謝野晶子さんの後輩にあたるようです。その他の意見としましては、環濠都市の歴史をしっかり展示することが堺市博物館の使命ですよというような意見、現在の堺と過去の堺を結びつける展示やストーリーということの意見、あとアニメーションで堺の歴史を見られるようにしてほしいというような意見を頂戴しております。
年代別の統計ですけども、堺の通史全体の展示、古代古墳などに関する展示っていうところの意見の方

がもう大多数を占めているというような結果になっております。
続きまして 8 ページですね。資料展示以外で堺市博物館の取り組みや果たす役割として期待するものは何ですかという問いに対して、一番多かった意見としましては堺の歴史・文化の研究や情報提供、情報発信というところが 44.6%、続きまして子どもの体験、フィールドワークなどの場づくり、この回答が 35.1%、続いて誰もが学べる生涯学習の場の提供であります。この部分とですね、観光振興、地域の活性化への貢献というのが、27.4%で同率の 3 番目に多い回答ということになっております。
年代別では、18 歳以上 30 歳未満から 40 歳代までの方がですね、子どもの体験フィールドワークなどの場作りというところに対する回答が最も大きいという答えがかえっております。逆に、50 歳代から 70 歳代までの方については、堺の歴史・文化の研究や情報提供、情報発信というところに回答が集中するという傾向があります。またですね、これも先ほどのちょっと統計の比率とは近いところがあるのかなと思うんですけども、30 歳代と 40 歳代が、学校教育との連携っていうところのパーセンテージが 39.4、29.1 という結果でちょっと高い傾向にあるということになっております。
また 60 歳代、70 歳代の方につきましては、誰もが学べる生涯学習の場の提供というところの数値が高い傾向にありました。
続きまして 9 ページ目です。堺市博物館の施設環境に関して期待するものは何ですかという問いに対してですね、一番多かった答えが体験学習ができる空間。2 番目はですね、公共交通機関での訪れやすさ、3 番目がゆったりとくつろげる快適な空間、ロビー、エントランスなどということで、いただいております。あとその他の意見としましては、図書館や喫茶店などを併設してほしい、駐車場を無料にして欲しい、美術館、特に期待していないというような意見をいただいております。体験学習につきましてはやはり 18 歳以上から 50 歳代までの方が、体験学習できる空間っていうのをいちばん期待しているということで書かれている比率が最も高いということになっております。また先ほどの統計とも重なるところがあるんですけども、70 歳代の方の意見がですね、公共交通機関での訪れやすさ、博物館に隣接した駐車場の設置っていうような数字も高い傾向にあります。
続きまして 10 ページ目です。堺市博物館で行う活動イベントなどに関して充実を期待するものは何ですかという問いですけども、これにつきましては、体験型イベントというのが 41.5%、企画展・特別展これが 37.1%、展示内容 33.8%という結果になっております。これも同じで、総じて若い年代の 18 歳以上から 50 歳代までの方が体験型イベントに期待するというところに分布している傾向にあります。あと 60 歳代 70 歳代については企画展特別展に期待するという意見が多い傾向にありました。市政モニターアンケートの方の説明は以上です。引き続き資料 4 の方に戻っていただきまして、括弧 6 市政モニターアンケートの意見等ということで、ちょっと口頭で説明させていただきますけども、若年層増に寄与すると考えられる意見というのをピックアップさせていただいた部分です。
ソフト面ということで、ＳＮＳを活用した情報発信の強化でありますとか、ツイッターでバズった内容などを取り入れる企画、Ｖチューバー（Ｖｉｒｔｕａｌ Ｙｏｕ Ｔｕｂｅｒ）等を利用した若者層へのアプローチというような意見ですね。あとは若年層といいましたが社会人でも 30 歳未満までは、十分若年ということでですので、社会人でも参加できる生涯学習講座ということで、時間を気にせず参加できるようオンラインでというのも、夜間開催とかいうようなことの意見というのも出ておりました。
いろいろあるんですけどもハード面ということになりますと、インスタの撮影場所みたいなものを作って欲しいとか、ＶＲ等の技術を活用した体験できるアトラクションを整備してほしいとか、図書館自習

室、学習室のフリースペースの設置っていうのは、今ちょっと当館の方にあまりそのスペースというのがございませんので、そういう意見というのもありました。
続きまして堺市博物館の現状についてです。ちょっと少々時間かかっておりますので、この辺は簡単に若年層ということでこれ数字出させていただいておりますが、基本的に 18 歳から 30 歳の数字を拾う方法がないので、高校生、大学生っていうくくりで、どれぐらいのパーセンテージがいるのかということなんですけども、だいたい 2%ぐらいです。ですから非常に少ないということになっております。
続きまして当館が実施します普及関連事業ということで、いくらか書かせていただいておりますけれど時間の都合上端折らせていただきます。体験学習会というのは先ほど増田課長の方からも説明ありましたように、1 と 2 の企画展「昔のくらし」というのはもう先ほどご覧いただきましたので、この部分については割愛させていただきます。特別展・企画展での関連事業として実施する講演会等というのをこれも博物館の事業として、それぞれの企画展に関して講師を招いて講演会であるとかシンポジウム等を開催しておりますので、そういうことで観覧者の増ということに対してアプローチしているということを書かせていただいております。
その他というところですけども、ミュージアムパス＆スタンプラリー、これも子ども向けの夏休みに親子で博物館に来てくださいというような取り組みです。
茶の湯体験プログラムというのはここ最近、茶室の方を利用して、子どもさんに茶の湯の作法というのを勉強していただく体験プログラムなんですけども、コロナの影響でここ 2 年は開催しておりません。
あと今回の若年層ということであれば「日本と世界が出会うまち・堺」という堺プロジェクトというイベント企画がありましてこの部分につきましては、高校生中学生を対象としてそれぞれ歴史文化について調査研究した内容を発表するというような中高生を対象とした高校生がメインですけども対象としたプロジェクトになっております。
あと年代的には一番今回の若年層と合致するのが新成人招待プログラムということです。これは新成人になられる方は、博物館および堺市内の文化館でありますとかさかい利晶の杜を無料で入れるというようなものなんですけども、実質ほとんど当館の方にはお越しいただいていないということです。
多言語音声ガイドシステムというのは、今回声優の方に吹き込みをしていただいて、若年層にアプローチできないかということでさせてはいただいておりますが、やはり声優の方ということで、アニメ等で興味のある方は受付の方に聞くと、年間 10 名ほどがその声優の方の名前を知っていて、その音声ガイドを借りていく方がおられるというようなことは聞いております。
説明につきましては以上です。
岩間会長　はい説明していただきました。このアンケートの内容とか数字について、何か疑問とか質問ございますか。どうぞ。
伊藤委員　この市政モニターアンケートの方なんですけども。説明あったかどうかわからないですけど、この方々は一旦博物館に来られて展示をご覧になった上で回答されている方でしょうかそれとも全くそういうことは関係なしに、というアンケート結果でしょうか。
石崎補佐　はい。もう、市としてエントリーされている 500 人のモニターの方に対して投げかけさせていただいていますので、当館に来て、というものではなくて来ている来ていないは関係なしにアンケートを取ったという結果です。
岩間会長　よろしいでしょうか。はい岡田先生どうぞ。

岡田委員　ちょっと今の関連なんですけれども、公募による市内在住・在勤在学の 18 歳以上の計 500 人ということなんですけど、これの内訳ってわかりますでしょうか。例えば 70 歳代の回答者 74 名、ほぼほぼ市内在住だと思うんですけど、年代によってその細かいこの方は在勤、この方は在学とかそういうデータはあるのでしょうか。

石崎補佐　これを実際実施しているセクションが我々と違うところでやっているので、データ取れば、ひょっとしたらそこまでは入手できるかもしれませんけど、今この場では細かいデータは入手してないです。すいません。そこはちょっとお答えできないですね。実際はもっと細かい属性も含めてあるとは思うんですけど、今は手元にはデータがないです。

土橋委員　今日お示しいただいている、その分析っていうタイトルのものなんですけども、今おっしゃっているように、細かい属性別にクロス集計されたものはまた別にデータとしてはお持ちなんですかね。例えば来たことのある方と来たこともない方のご意見がちょっと。今は年代別にクロスはされているんですけども、質問によっては来たことがない人に対しても必要と考えるサービスとかそういったことを聞いてらっしゃるのかなっていう質問があったように思いますので、その来たことがある方と来たことがない方の傾向はやっぱりちょっと違うのかな、っていう気もするんですけど、そういったデータは今ここにお出しされてないんですけども、クロス集計とかはされてらっしゃるんでしょうか。

石崎補佐　すいません、ちょっと今すぐには用意はできないんですけど、データとしては入手できます。

土橋委員　年齢別での回答者の人数はあるんですけども、もともとの 500 人で、これ公募なので、きっと年代的にたくさん公募されている年代とか人数が少ないところもあるかと思うんですけど、その辺はだいたいまんべんなくどこかの年代層に偏るっていうことにはなってないんでしょうね。という確認なんですけども。答えている方もだいたい多い年代で 100 名とか、少ないと 60 名というのが 18 歳以上 30 歳未満なので、20 代の方を中心とするのかなと思うんですけど。もうちょっと回答数が少ないのでそれがもともと人数が少なかったのかどうかってちょっと確認だけなんですけども。

石崎補佐　そこまでの詳細を持ち合わせてないので、お答えできないんですね。すいません。申し訳ないです。

岩本副館長　年齢につきましては、だいたい正確じゃないんですけど大まかに市民の年齢構成に応じて、500 人を、実際もうちょっと候補者は多いですよ。500 人以上の応募者から年代とかできるだけ居住している区とかに偏りなく 500 人を選んでいることはついてはご理解いただきたい。

土橋委員　ありがとうございます。

岩間会長　500 何十人応募されて、バランス取れるように 500 人選んだみたいにホームページに書いてありましたね。その中で回答してくださったのが 482 人ということだったようですね。関心のある方は回答してくださったかもしれないですね。

村田委員　関連することですけど、ここのテーマが「堺市博物館の今後のあり方について」というこの単一のテーマだけなのですね、これは。つまり市政の何かいろいろあるテーマが他にもあって、その一つとしてこれはということじゃなくて、この「博物館のあり方について」という問いかけで、それに応じているという、そういうものなんですね。

石崎補佐　単体ではなく市政全般に対してもっとたくさんいろんなセクションからの質問がある中の、博物館の部分だけで設問で 10 問だけいただいているような感じですね。

村田委員　そうですか。わかりました。ちょっとそこが大きなところだったので。そういうことだからあ

れですね特に堺市の博物館に関心のない人も答えているということですね。元々この展示のテーマなので応募しているんだったら、関心があるというのが前提になりますので、ちょっとその辺の基本的なご説明がなかったと思いますので。

岩間会長　ただいまのアンケートを踏まえまして、先ほども事務局から指摘ありましたように、若年層の方が来館少ないということで、若年層の来館促進について委員の皆様から何かご意見、ございませんでしょうか。いかがでしょうか。

禰冝田副会長　本来であれば、これに基づいて堺市博さんはどういうことを考えておられるのかっていう、ご意見を聞いた上でこの協議会にかけていただくと、意見が言いやすいのかなと思うんですけども、実態を我々わかってない中で、言っていいですかね。若年層っていうのは、どこの博物館でも少ない。来館者で多いのは 50 とか 60 歳以上の方々です。弥生文化博物館の場合にはほとんど来ないんですね。なので、堺市博物館固有の問題ではないような気もします。なかなかこれに関して意見を言ってもすごく何か難しいなと思っています。

須藤館長　このアンケートの、統計的な資料から言えることは、若年層の値が高いのを見ていくとね、やっぱりあの博物館に対する関心が強いのは子どもの体験、フィールドワークなんですよ。それが圧倒的に 40 歳以下の人に高いし、もう一点は、体験型イベントです。これも 40 歳以下が圧倒的に高いんですよね。生涯教育からですけど、そうなってくると、この期待されている子ども体験フィールドワークというのは一体何なのか、あるいは体験型イベントは何なのか、なんていうことは、調査の結果ではおそらくわかってないと思うんですよ。ですからこのところ皆様のね、イメージというのが、こういうものを指しているんじゃないかということを教えていただけると助かるっていう気がします。これは会長に任せますけど。そういうことを聞くチャンスが時間あれば聞いてほしいなと言う感じです。

岩間会長　伊住先生。

伊住委員　ありがとうございます。まず若年層というのがどの辺りの層を指すのかっていうのも結構問題かなと思うんですけども、まずご説明いただいた堺市博物館の現状で来館者の状況というところでの数字で高校生大学生の割合が 2%弱しかないというようなお話があったかと思います。

それでアンケート自体は 18 歳以上から取っていますので、このアンケートをもとに高校生とかの層にアプローチする策というのは、なかなか思いつかないのかなというふうに思うんですけども。少なくとも 18 歳以上から 30 歳未満という区分の中でもだいぶ属性が違いますので、そのあたりでの対応というのは難しい部分もあるかと思います。まず若い層ですよね。特に今、館長もお示しいただきましたように、特に問 9 問 10 の堺市博物館に期待する取り組み役割、また活動イベントということでは、体験型のイベントであるとか、子どもの体型フィールドワークなどの場作りという割と体験に向けた期待値というのが高いのかなという気はしますので、まずそこを考えなければいけないということかと思います。ご意見様々に出ていますが、ソフト面で高校生ぐらいの年齢が参加できるイベントの実施ということもありますけれども、現状企画していただいている体験型のイベントを拝見していますと、小中学生が対象のものが割と多いのかなという印象がありまして、見ていますと、この勾玉を作ろうと、勾玉のストラップを作ろうというのは、小中学生以上ということになっていますけども、対象年齢でいうとやはり小中学生対象となっている企画が、体験型のイベントが多いような気がしますので割と若年層のイメージとしては博物館に行っても子どもたち向けのイベントが多いから、なかなか情報を調べてみようというところまでまず行ってないというか、どちらかいうと子ども向けのイベントが多いのかなという印象が先ん

じているじゃないかなというような個人的な感覚はちょっとありまして、そのあたりのアプローチというか、もう少し上の世代といいますか、若年層の中でも小中学生以上の高校生大学生社会人30代ぐらいまでの層に対するアプローチというのは、博物館として積極的に広報ができていない部分ではないでしょうか。

禰冝田副会長　そうなんですよね。難しいんです。弥生文化博物館でもですね、来ていただいているのは小学生から中学生までですね。「子どもファーストデー」と称して一週間子ども対象に連続的にイベントをやりますが、高校生は来ないんですよねえ残念ながら。伊住さんところも多分悩んでおられるとこだと思うんですよね。なかなかそこに切り込むことが難しい現状の中で、「じゃあどうするのか」っていうところでお互いに知恵を出すしかないのかなとは思います。ただですね、非常勤なんですけどね、外国語大学で授業した時に、「何で歴史の授業受けたの」っていうことを聞くと、「子どもの時にそういう体験学習をやったので文化財って面白いんだ」、というような回答する学生が半分以上いたことがあります。ですから小学生でも中学生でも、来てもらう人をもっともっと増やすっていうことがまずは大事だと思います。その先ほど博物館にもっと来てもらうんだって話ありましたけども、まずは来てもらいやすい環境整備というんですかね、年齢層ごとにもう少しターゲットを絞って来てもらう工夫ができたらいいなと思います。新規開拓をしていく工夫をしていければいいかなというふうに思いますけども、何やったらいいかっていうことはわからないですね。

岩間会長　はい、いかがでしょうか。岡田先生。

岡田委員　ちょっと教えていただきたいんですけど、18歳以上30歳未満、今の高校生・大学生だと、もう好き嫌いもだいぶはっきりしていますし、来ない人は来ない。逆にすごくマニアックに好きな人、もう逆にいると思うんですよね。そういう方をいかに捉えられるのかなと。高校ぐらいだと、いろいろクラブ活動で歴史のことやっているとか、大学になるとそれ専門にやっている学生もいるでしょうし、先ほどあった留学生なんか案外興味持っていたりするんですけれども、例えば高校のそういった歴史関係の部活であるとかそういうところとの連携というか関係とか、何かそういうところのアプローチっていうのは、こちらであるんでしょうか、それとも、他のところでもよくあるのでしょうか。これちょっと教えていただきたいことです。

石崎補佐　今のところ高校生との連携のようなものは当館ではないですね。最近ちょっと別件ではあるんですけれども、大学という部分ではミュージアムグッズの開発っていうのを、今、関大生と一緒にさしていただいていまして、まさに明日その企画提案というのをいただくんですけど、大学生がその関係で今博物館の方に何度か足を運んでいただいて、そのときに逆に今回のテーマで大学生に博物館へ来てもらおうと思ったらどんなことしたらいいだろうかっていう話をさせてもらったときに、結局ですね、その発信の仕方が間違っているって言われるんです。何かっていうと、彼らの情報を取るというのが今スマホでインスタグラム（Instagram）ないしツイッター（Twitter）ということらしいです。それでうちの博物館っていうのが、基本的には堺市のホームページ博物館のホームページと、あとフェイスブック（Facebook）なんですけど、フェイスブックは駄目なのって聞くと、彼らはフェイスブックなんかしている若者いないという答えでした。僕はインスタグラムその辺あんまり得意じゃないので、そうなのかというところでやはり発信の仕方っていうのが違うかなというようなこと、それはたまたまミュージアムグッズの連携事業ということで彼らの意見聞く機会があったので、それぐらいですね。ですから特段高校生とか大学生にアプローチするようなイベントというのはその層だけっていうターゲットに狙った

企画というのはないです。
岡田委員　その層だけというのではなく、歴史の好きな人達。
石崎補佐　歴史の好きな人たちにアプローチするようなものですねそれも。
須藤館長　高校生との連携はね、大阪大学と堺この博物館が連携してね、7 年間続けて、堺のひと、もの、ことをテーマにした高校生を中心にフィールドワークをやってもらって、夏に 1 回打ち合わせして秋に 25 分の報告してもらうという。テーマは彼らが選んでということで、それでやってきております。ところが博物館はどう関わるのかということにおきましては、博物館に来ればデータあるし展示してあるのにな、と思うけども来てくれない。毎年十二、三校この付近の公立の高津高校とか、関大とかそういう高校の歴史クラブ、地理歴史クラブの人たちがやってくるんだけど、やっぱり情けないのは、博物館に来てデータ収集をしたりね。うちの学芸員からこのインタビューして情報を得るとか、そういうところまでまだ行ってない。だから形では連携なんだけども、長く続いていくんですよ。高校生は本当に興味あるからやっているんだけど、この辺も少し博物館としては、積極的に関わりたいんだけども、うちにはうちの学芸員は学芸員の学問の自由がありまして、なかなかうまくいかない。というのが館長としては情けないなと思っております。ですから毎年、100 人近い高校生の市町の高校生がそのプロジェクトに関わっているわけだからね、そういう人たちに対して、博物館の魅力というものをもっと教えられないかなって思っているんですよ。
そういうことで博物館全体として関わるんじゃなくてですね、ちょっと情けない状態の関わり方をしてます。
岩間会長　伊藤先生何かございますか。
伊藤委員　私以前大阪歴史博物館というところで勤務していたんですけれども、若年層じゃないんですが三、四十代の方、しかも女性の方に人気なのが、近代建築を見てまわるという、博物館の展示とは若干ずれますけれども、市内のあの戦前の建物ですね、建築史探偵団という事業をボランティアと学芸員でやっていまして、それがものすごい人気なんですね。それは建築史の学芸員もおりまして、建築の部分部品、タイルとか照明器具とかいろいろなものを集めたりして常設展示しているんですけども、そのイベントはすごい人気なんですね。多分、町にある、ちょっとレトロなものを、学習というスタンスではなくて、ブラタモリじゃないですけども、ぶらぶらと街歩きしながら見つけたり、次また行ったらこんなのがある。これにはどういう意味があるのか、いったような感じでその場でまた考えていく、そういうレトロとか発見とかっていうあたりが割とちょっと若い人たちに食いつきやすい内容かもしれないなあと、今までの体験の中で思っていたところです。
岩間会長　確かにそうですね。どうぞ。
土橋委員　若年層っていうのはどちらかといえば時間とか、そういうことも縛られたくないといいますか、やっぱりこういう公立の施設でしたら開館時間とか、休館日とかあって、なかなかパッと行きたいなと思っても、もしかしたらちょっと行きにくいっていう敷居の高さみたいなのがあるかもしれないですけど。今館長がおっしゃったように、そのなかなかその今ねすでにこの堺の博物館に関わりを持っておられる高校生ですね、メインが高校生とおっしゃったんですかね、あの堺プロジェクトって、そういう高校生の方は歴史には少なくとも関心があって自分たちで何かをこうね、研究というか勉強したいという思いをお持ちの方なので、その方々をまず手がかりに、どういうことをできるのかなみたいな、プロジェクトで発表して終わりじゃなくって、7 年間もされているんでしたら、もう多分高校生が大学生にもなっ

て社会人になっているかもしれないんですけども、そういう繋がりを、一旦今はその学芸の方の関わりは少し薄いのかもしれないんですけども、せっかくそういう方々との出会いがあったので、もう少しそういう中高生の方と一緒に対話しながら、何か次のステップを考えるようなそれこそプロジェクトっていうんですかね、発展系のことにまた取り組んでいただいてもいいのかなって思いました。それと発信っていうのが、もちろん何をするかもあるんですけどね、発信っていうのも本当に特に高校生・大学生って広報紙見ないでしょうし、ホームページ見ないでしょうし、仰っているようにフェイスブックがね、50代以上の人がやるものやみたいに言われていたりもするので、やっぱりインスタグラムとかちょっと最近はいろんなものが出ているらしいんですけども、なかなかちょっと行政っていうことでは、機動的に難しいとこもあるかもしれないんですけども、むしろそういう若い人にそういうツールを使って発信してもらうと。前の仕事の関係でインターンシップで、生涯学習施設なので大学生に夏休み中に来てもらって、やってもらう一つに今言っていたフェイスブックなんですけども、フェイスブックでこのイベントとか事業の成果とか報告をしているっていうところがあるので、そういった記事をその学生さんに書いてもらうと、やっぱり若い人の視点でもちろん中身は確認はさしていただくんですけども、若い人たちの視点で、学生の視点でそういう話をしてもらうっていうのもより若い人に届きやすいのかなあという気もするので、どうしてもねやっぱり専門家の方は専門家の視点での発信になるでしょうし、利用者目線っていうですかね、若い人目線での発信っていうのが有効な方法かなと。年がら年中ではなくってある一定の時期とか、何かそういうプロジェクトの発表の後にしていただくとか、なんかそういうのでもいいのかなっていう気がしました。あんまりとりとめがないんですけど、具体的にどうすればいいのかわからないんですけども、今はすでに博物館と関わっている人たちを大事にしていただいたらどうかなと思いました。

岩間会長　確かに若い方、私が頑張っている今昔館でも何か着物が着られるっていうのが、若い人に広がって、もうそれこそ年間20万とか物凄い人数が来てアップアップするぐらいになりました。今それは全部引いてしまって、閑古鳥なんですけれども、先ほども何か友達に聞いた、みたいなので来てる人が多いという話しでしたがやはりそういう情報の伝わり方というのは、若い人ってのはもう大変なものがありますので、その魅力を発信させたいなと感じます。なんか村田先生、アイディアとかありますか。

村田委員　むしろアイデアはないんですけれど。やっぱり人の子の一生のことを考えましたら、子どものときから学んだ経験があって、勉強してきて大人になって、まあそういうサイクルを考えると、やっぱりそれぞれの年齢に応じた関心というのがあるのかなと思うんですね。博物館というのをその関心の中に入って来たり入ってこなかったりという、まあこれはもう仕方のないことかなと思うんですね。ですから、なんかかえって逆行するようなお話しになりますけど、あんまり若手の目を引くようなことを念頭に置きすぎるとかえって本来の博物館の姿から逸脱してしまうんじゃないかなという危惧も感じるんです。何かこう奇をてらったようなことをして、かえってその時は一時的に本当にわっと人が来るけれども、それだけで終わってしまい、かえって全体としてみればマイナスになってしまうという、そういうこともあるのではないかなと思いました。全然、建設的な意見ではないと思いますが、そんな気もしています。また、私は、いろいろな市民講座で話す機会がありますが、私自身が還暦を超えたぐらいから、小学校・中学校・高校の友達がその市民講座に来てくれるということが増えてきました。やっぱりだいたい定年になっていくと、そんな時間ができて、今まで見向きもしなかったような講演会に行こうという気持ちに自然になるわけですね。だから、忙しい時期だとか、そういうのに興味がない時期に無理やり目を向

けさせようとしても仕方がない話だと思いますので。これは何もしなくていいということではないですが、その程度ですね。

岩間会長　そうですね。博物館で人気なのは、何かを作ったりするものです。なんか民芸品風のものを工作するとか、2時間ぐらいでできるもの、それも学芸員ではなくて、ボランティアの人がなんかそういう指導みたいな形でやるというのが割と常連さんも多い人気体験ですね。

というなことで皆さんにいろいろご意見をいただきました。子ども向け以外のイベントを開設してはどうかとか、連携しているんだったら、その関係を発展させて発信、情報を作ってもらったらどうかとか、具体的に建築を見て歩くのが人気だったとか、どこ向けの工作体験もあるというような意見が種々でたかと思います。そんなところでしょうか。

そうしますとこのアンケートについてということでご意見いただいたということで、本日の議事は以上なんですけれども、事務局の方から何かございますでしょうか。

司会　すいません、ちょっとお伝え漏れがございまして、報告させていただきます。本来でしたら冒頭で、今回の会議で傍聴の方が 2 名いらっしゃるということをお伝えすべきだったところ、失念してしまいまして、事後報告になりましたけども、委員の皆様、よろしくお願いします。

岩間会長　ということで本日の議事がこれで全て終了いたしました。委員の皆様のおかげで短い時間ではありましたけれども、非常に有益な意見が集まったんではないかと思います。ありがとうございました。今後ともこの堺市博物館を注視して何か我々役に立てることがあったらぜひ協力したいと思います。それでは司会にマイクをお返しします。

司会　本日は委員の先生がた、長時間にわたりますご協議、ご検討をいただきまして誠にありがとうございました。本日、委員の先生がたから頂戴しましたご意見やご提案を踏まえまして、若年層への来館促進の取り組みについて、私ども一層努力の方をですね、検討を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、閉会にあたりまして須藤館長よりお礼のご挨拶を申し上げます。

須藤館長　はい。今日はありがとうございました。昔のくらし、これに関しましては、堺産、堺らしいものを展示しているという意見もありましたが、岩間先生が全てまとめてくださいました。ありがとうございました。それからやっぱりこの小学 3 年生対象の展示は指導要領に載らなくなったら、指定されなかったら、あんな展示はおそらくやっても子どもたちは来ないという状況が起こるんじゃないかと思います。そういう先を見越してですね、常に歴史を見る目を子どもたちにつけるにはどんな展示がいいのかってことを考えながら、毎年テーマを考えながら続けていきたいと思います。ただし所蔵しているものが限られている。少ないんですよね。テーマごとにやるといっても、一番人気、展示で回数が多いのはミシンとか、冷蔵庫とか、ローラー付の洗濯機、ラッパ付きの蓄音機、とかは毎年登場するぐらい人気ものなんです。人気ものというのはこちらが出しているだけなんですけど。それはちょっと限定はされていますがその中で工夫しながらね、毎年同じものではなく違う展示をやっていきたいと思います。

それからアンケートの分析と説明ですが禰宜田さんおっしゃるように、こちらは何も用意しないでただ統計紹介するだけでした。データに基づいてこちらが原案作って皆さんに提示して、それに対してコメントもらうというのが本当の筋だと思います。

若年層をどうしたら博物館に足を運ぶかについては永遠の問題だと思います。どんなイベントや展示をイメージしているのかってことをね、こちらはある程度つかんでおかないといけない。コンサートとかね、ホール使った催し、あるいはもっと違う何かを求めているのかはわからない。その辺のところを見た

うえで、その高校生・大学生たちの博物館の催し物に対する、イベントに対する関心がどこにあるのかとか、こちら側で少しサーベイするしかないかなと考えています。本当に高校生大学生ってのは博物館に対しては関心がないです。前に民博というところにいましたけども、大学の先生が授業で学生を連れて来て、やっと学生が来たってくらいで、学生のみで来ること本当に少ないんですよ。高校生はましてやないんですよね。
そういうことで、博物館に対するその世代、10 歳後半から 20 歳前半までの人たちに関しましてはやっぱり何をしたらいいのかってことを本当に考えてもアイデアはなかなか出てこないんだよね。
だけども諦めないで、博物館としては考えていきたいと思いますので、改善案ができましたらこの場で披露いたしますので、皆さんからいろんな意見をお聞きして、詰めていきたいと思いますので、よろしくお願いします今日はどうも中途半端な提示の仕方で申し訳ありませんでした。でも熱心に議論とご協力ありがとうございました。
司会　はい、ありがとうございました。これをもちまして、本年度第 2 回博物館協議会は終了させていただきます。なお、令和 4 年の来年度の博物館協議会の日程につきましては、来年度以降にまた日程調整をさせていただくことになりますので、その際またご協力よろしくお願いいたします。以上でございます。どうもありがとうございました。